■■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」によるシンプルトレード■■

ドルストレート通貨ペア（ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル）、クロス円通貨ペア（ユーロ円、豪ドル円、ポンド円）に関して、週足、日足、4 時間足、1 時間足分析を掲載します。
分析は、全て、先週末 3 月 8 日の日足終値（NY 時間午後 5 時）時点での判断です。

＜＜＜主要 7 通貨相場週足、日足、4 時間足、1 時間足分析＞＞＞

「週足」はポジショントレードの大局観把握、
「日足」はスイングトレードの大局観把握、
「4 時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、
「1 時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。
尚、特に、1 時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて
判断することをお勧めします。
例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、
スイングトレードであれば、主に 4 時間足での売買判断、
ゆったりデイトレードであれば、主に 1 時間足での売買判断、
デイトレードであれば、主に 5 分足での売買判断となります。

■ドル円

＜＜週足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、

等々。

＜＜日足＞＞
本格下落トレンド局面。
終値と－1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

＜＜4 時間足＞＞
本格下落トレンド局面。
終値と－1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

＜＜1 時間足＞＞
緩やかな下落トレンド局面。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる
一方、終値が同ラインを上回ると＋2σラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと－2σラインの間を
往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は
戻り売り戦略が有効となる。一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整
反騰局面入りする点には注意しておきたい。

■ユーロドル

＜＜週足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。

＜＜日足＞＞
本格上昇トレンド局面。
終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が＋1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。
トレード戦略としては、終値が＋1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

＜＜4 時間足＞＞
緩やかな上昇トレンド局面。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる
一方、終値が同ラインを下回ると－2σラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。
トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと＋2σラインの間を
往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は
押し目買い戦略が有効となる。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整
反落局面入りする点には注意しておきたい。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。

■豪ドル/ドル

＜＜週足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。

＜＜日足＞＞
本格上昇トレンド局面。

終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が＋1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。
トレード戦略としては、終値が＋1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

＜＜4 時間足＞＞
本格上昇トレンド局面。
終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が＋1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。
トレード戦略としては、終値が＋1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。

■ポンドドル

＜＜週足＞＞
上昇バイアスを伴ったレンジ局面。
遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向である
ことが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、
上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下－2σラインにかけての価格帯
での押し目買い戦略がより有効。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。

＜＜日足＞＞
本格上昇トレンド局面。
終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が＋1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。
トレード戦略としては、終値が＋1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

＜＜4 時間足＞＞
本格上昇トレンド局面。
終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が＋1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。
トレード戦略としては、終値が＋1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

＜＜1 時間足＞＞

緩やかな上昇トレンド局面。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる
一方、終値が同ラインを下回るとー2σラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。
トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと＋2σラインの間を
往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は
押し目買い戦略が有効となる。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整
反落局面入りする点には注意しておきたい。

■ユーロ円

＜＜週足＞＞
上昇バイアスを伴ったレンジ局面。
遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向である
ことが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、
上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下－2σラインにかけての価格帯
での押し目買い戦略がより有効。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。

＜＜日足＞＞
調整反落局面の最終ターゲットである－2σラインに到達。
今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。
尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から下放れる（陰転する）、
2）終値が－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、－2σラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。
一方、終値が－1σラインを上回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、
目先は買い戦略が推奨される。

＜＜4 時間足＞＞
緩やかな下落トレンド局面。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる
一方、終値が同ラインを上回ると＋2σラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと－2σラインの間を
往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は
戻り売り戦略が有効となる。一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整
反騰局面入りする点には注意しておきたい。

＜＜1 時間足＞＞
緩やかな下落トレンド局面。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる
一方、終値が同ラインを上回ると＋2σラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと－2σラインの間を
往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は
戻り売り戦略が有効となる。一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整
反騰局面入りする点には注意しておきたい。

■豪ドル円

＜＜週足＞＞
上昇バイアスを伴ったレンジ局面。
遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向である
ことが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、
上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下－2σラインにかけての価格帯

での押し目買い戦略がより有効。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。

＜＜日足＞＞
調整反落局面の最終ターゲットである－2σラインに接近中。
今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。
尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から下放れる（陰転する）、
2）終値が－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、－2σラインをブレイクする、等々。
上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。
一方、終値が－1σラインを上回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、
目先は買い戦略が推奨される。

＜＜4 時間足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。

＜＜1 時間足＞＞
本格下落トレンド局面。
終値と－1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

■ポンド円

＜＜週足＞＞
本格上昇トレンド局面。
終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい局面。
すなわち、終値が＋1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。
トレード戦略としては、終値が＋1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

＜＜日足＞＞
調整反落局面の最終ターゲットである－2σラインに到達。
今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。
尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から下放れる（陰転する）、
2）終値が－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、－2σラインをブレイクする、等々。
上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。
一方、終値が－1σラインを上回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、
目先は買い戦略が推奨される。

＜＜4 時間足＞＞
緩やかな下落トレンド局面と調整反騰局面が併存中。
終値が－１σラインを上回って以降、調整反騰局面入りしたが、最初の戻りの目途である
センターライン近辺まで上昇した後に反落している。
今後、終値がセンターラインを超えないかぎり緩やかな下落トレンド局面と読む一方で、
終値が－2σラインを下回らないかぎり、調整反騰局面継続のシナリオも残る。

トレード戦略としては、センターラインにかけては、一旦は戻り売りを優先させたい一方で、
終値がセンターラインをブレイクすると、本格的な調整反騰局面に入ることから、一転して
買い戦略が有効となる。
また、終値が－2σラインをブレイクするまでは、押し目買い戦略が有効である一方で、
終値が同ラインを下回ると、あらためて本格下落トレンド局面入りするため、売り戦略が
有効となる。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、もしくは、下放れる（陰転する）、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。

以上です。